

2023年2月24・28・29日 青山学院高等部 生物基礎 特別授業

青山学院高等部1年生の「生物基礎」でプレパパ・プレママ教室を実施しました。青山学院高等部では2019年から継続して授業をさせて頂いており、今年で5年目となります。

2021年・2022年は新型コロナウイルス感染症の影響で、全てオンラインでの講義となりましたが、今年度は3年ぶりに対面授業を実施することができました。授業スケジュール上、2クラスはオンライン講義でしたが、残り8クラスは教室で生徒さんとしっかり交流しながら授業ができました。



長崎大学からの配信の様子

青山学院高等部では、50分授業2コマで調整していただいています。2020年までのプログラムでは、潜性遺伝疾患に関する内容を含んでいましたが、2021年にオンラインでのプログラムに改変する際、内容をスリム化しました。今回の実践でもオンラインを併用することも考慮し、2021年に改変したプログラムを用いました。対面授業では、改変前プログラムの懸念であったディスカッションの時間が十分に確保できました。



プログラムでは、胎児の育ちの様子を確認しながら、NIPTや羊水検査の概要、検査の時期などを整理していきます。週数に応じて胎児の大きさで作成したプレートをお腹にあててみたりして、イメージを作っています。NIPTの模擬検査は棒くじを使用します。誰にでも陽性の結果が伝えられる可能性があることを意図して、この方法を使用しています。棒くじの先が赤く塗られている場合は、NIPTの結果が陽性であることを示します。

実際の結果はプライバシーが保たれた部屋で伝えられますが、このプログラムでは学習のために、一斉に結果を確認します。結果を見てどのような気持ちになったかも共有します。

羊水検査の受検に関するディスカッションでは、「痛い思いをするのは妻だから、妻の意見を尊重したい」という意見、「2人の子どもだから、2人でちゃんと話し合うべき」、「検査で流産することが怖い」など、侵襲的検査に対する不安について検討されていました。針の太さや麻酔ができるのか、どれくらい痛いのか、など、具体的な質問もありました。



確定的検査を受けることで、「より確実な準備ができる」と考える人、「ちゃんと育てられ

ないかもしれない」と話す人もいて、模擬検査であっても意思決定の難しさを実感できていたと思います。2コマの授業の間の休憩時間では違うグループ意見を聞いている様子が見られましたし、授業後も生物担当の先生に「先生ならどのような選択をするか」と質問があったとお聞きしました。いろんな授業でディスカッションを経験していることや学校全体で共生社会を考える学習を実践していることが伝わってきました。

「どんな意見も否定せずに聞く」ことはとても難しいことですが、青山学院高等部の皆さんは、それがとても自然な形で実践できていました。「それ、どうして?」「もうちょっと詳しく」という質問がどのグループからも聞かれました。まずは意見を受け止め、詳しく聞くことで、その人の発言の意図が伝わってきます。

2年ぶりの対面授業で、オンラインでは十分に感じる事ができなかった生徒さんの様子が直に感じられ、とても充実した時間でした。

青山学院高等部1年生の皆さん、生物担当の武田先生、河野先生、有意義な時間をありがとうございました。



文責：森藤 香奈子